

本当に不思議なこと

田中 明（宝満山ヒキガエルを守る会）

1996年から2024年までの8年間、宝満山を登る子ヒキガエルを見続けてきて、不思議に思ったことを書きました。最後に補足説明を書いています。

1. なぜ 子ガエルは宝満山に登るのか？

登山している子ガエルは、登山道をひたむきに山頂に向かって見えます。

2. なぜ、産卵池から北方向と東方向に別れるのか？

北方向に向かうと、すぐに登山道に出ますが、東方向に向かうと複雑なルートを通して登山道に出てきます。

3. なぜ、子ガエルは登山道（正面道）を下山しないのか？

産卵池から山頂に向かって登山道（正面道）を登って行きますが、登山道を下山する子ガエルを見たことがありません。

4. なぜ、土蜂の巣穴に隠れるのか？

晴れた日が続いたとき、暑さや乾燥を避けるために、登山道の急斜面にある土蜂の巣穴に避難する子ガエルがいます。その方法をいつ、どのようにして知ったのでしょうか？

5. なぜ、登山道の分岐点では登山者が多い正面道に登るのか？

正面道を通して登っていると、足元では子ガエルも登っているので、単に目に付きやすいので、多く見えるのかと思い、他の登山道（行者道、天狗道など）などでも調べました。

6. なぜ、宝満山に登頂後、仏頂山に向かうのか？

登頂して達成感の子ガエルが感じるとは思いませんが――。

補足1. なぜ 子ガエルは宝満山に登るのか？。

宝満山に登る理由はともかくとして、登山道を登っている子ガエルを見ていると、なぜひたむきに登っているのだろうと思います。そのひたむきさに感動します。人間にとっては宝満山は結構、大変な山だと知っていますから、尚更にそう思います。

特に、ひたむきさを感じる場所が何か所かあります。

第一は、林道を横断し側溝に落ちた子ガエルが U 字工の垂直の壁を登る所です。壁には苔が付いているので、苔を利用して登りますが、落下することもあります。落下しても何度も挑戦して登って行きます。

第二は、登山道の石段を登る所です。ほぼ垂直の石段の石を登り、落下すると移動して登れそうな石と石の間を探して登って行きます。

第三は、今はありませんが、2017 年頃、2 合目付近に登山道を横切る蟻(子ガエルの半分くらいの大きさ)の大群の行列がありました。その行列を子ガエルがどのように乗り越えていくのか見ていました。子ガエルの大群といっても、一斉に登って行くのではないので、絶えることなく横切っている大群の蟻にはかないません。蟻の行列の本隊に近づく前に、伏兵の蟻に見つかって、跳んで逃げます。結局は、蟻の行列を避けて、登山道の端の方から登っていました。

これらの難関を乗り越えて登っていくのを見ていると、なぜ それほどまでして登るのだろうと、見ていてつくづくそう思います。

生まれた子ガエルの数に比べれば、非常にわずかですが宝満山に登っています。従来の研究によれば、産卵池の北側から上陸し北側の山に登る理由として、太陽の光が多く当たりヒキガエルの餌が多いので、視覚的に明るい北側に向かうと言われています。

萩市の産卵池の北側に位置する指月山の山頂に登っているのが実際に確認されています。宝満山と指月山を比較すると、産卵池と山頂までの水平距離は宝満山の場合は指月山の場合の 5 倍、標高差は 4 倍と、地形的なスケールは異なりますが、宝満山も産卵池の北側に位置するので、同じ理由が成り立つのでしょうか？

産卵池から山頂までに至る道が形成された理由の一つの仮説が人によって作られた「匂いの道」説です。

補足2. なぜ、産卵池から北方向と東方向に別れるのか？

産卵池で上陸した子ガエルが北方向に向かうとすぐに登山道に出てきます。しかし、東方向に向かった場合は藪の斜面を登り、林道に出て横断し再び藪の斜面を登っていき、その後、北方向に進み、南斜面を登って登山道に出て来ます。この後者の複雑なルートは、人間が通らないルートなので「匂いの道」説では説明できません。(匂いは風によっても運ばれるので、一概に否定できるものでもありませんがー。)

このように、二つの方向に別れて登る理由は、太陽の位置（方位角と高度）が時間とともに変化するので、太陽の光が当たる面も時間とともに変化することに関係あるのでしょうか？

補足3. なぜ、子ガエルは登山道（正面道）を下山しないのか？。

もしも、下山する子ガエルがいるなら、登山道では登る子ガエル、下山する子ガエルが右往左往することになります。しかし、逆走することなく登山道を一方通行で山頂に向かって登っています。

子ガエルを山頂に向かわせている強い意志の力があるようにも思います。

補足4. なぜ、子ガエルは土蜂の巣穴に避難するのか？

晴天が続いた時、暑さと乾燥を避けるために、子ガエルは登山道の脇の落葉の下や藪の中に隠れます。しかし、もう一つ不思議な方法があります。

登山道（正面道）と林道が交差する「2kmポスト」近くの登山道の右手の斜面に、子ガエルが入るくらいの大きさの多数の土蜂の巣穴があります。子ガエルはこの垂直に近い急斜面を1mも登って行き、巣穴に隠れて、暑さと乾燥を避けます。

この避暑の方法は偶然見つけたのでしょうか？ 落葉の下に隠れることなく、なぜ体をさらして急斜面を登るのでしょうか？

補足5. なぜ、脇道よりも正面道を登る子ガエルが多いのか？。

産卵池から宝満山の山頂への登山道には、鳥越道、天狗道、杖捨道、女道などの分岐道があります。正面道で子ガエルをカウントする際に、これらの分岐道でもカウントしましたが、正面道に比べて、全くゼロではありませんでしたが、非常に少ない数でした。

また、いわゆる「薬箱」がある位置には古い橋と2017年に造られた新しい橋があり、次第に新しい橋の方向に向かう数が多くなりました。

これまでは、これらの現象の理由説明に「匂いの道」説を用いてきました。しかし、2023年の豪雨時の観察において、「匂いの道」説に基づいて正面道に向かうものと思いましたが、8合目で右折して正面道に向かう数よりも明らかに、直進する「杖捨道」の方が多く目撃されました。この時、「杖捨道」には太陽の光があたり、正面道より明確に明るかったのは確かです。

このとき、子ガエルの行動には光の影響も考慮する必要があると思いました。

補足6. なぜ、宝満山に登頂後、仏頂山に向かうのか？

宝満山に登頂した子ガエルは、○草むらの中に隠れる、○上宮裏の断崖に向かう、○礼拝石に向かって登る、○キャンプセンターへの階段を降りるなど様々です。人間のよう達成感を味わって、山頂広場でくつろぐことはなく、さらに移動していきます。

もっとも不思議なことは、山頂からキャンプセンターへの急な階段を下りて、仏頂山の方に向かうことです（実際に仏頂山で子ガエルが目撃されています）。

補足7. わかったこと

これまで、最も不思議に思うことを書きましたが、わかったこともあります。

それは、

1) 子ヒキガエルの行動は、気象（特に、雨、気温、地温、日射など）の影響を受けやすいことです。

2) 子ガエルは確かに宝満山の山頂に登っていることです。

2025年1月26日